

○人文社会科学部

本学部所属学生が教育職員免許状（以下「教員免許」という。）を取得するには、以下の条件を満たしていなければなりません。

- ①教員免許取得の基礎資格（学士の学位）を有していること。
- ②表１の単位を修得していること。
- ③教養教育で開講する以下の授業科目の単位を修得していること。

- ・憲法 ２単位
- ・健康・スポーツ ２単位
- ・英語コミュニケーション※ ２単位

※中級ドイツ語、中級フランス語、中級ロシア語、中級中国語、中級韓国語でも可

- ・情報基礎A ２単位

- ④中学校教員免許を取得する場合は、「介護等の体験（特別支援学校２日間、社会福祉施設等５日間の実習）」を実施していること。

詳細については１年前期に開講する「教職入門」で説明するので、教員免許取得希望者は必ず「教職入門」を申告のうえ履修してください。

なお、各課程で取得できる教員免許は、前ページの「１ 教育職員免許状の取得に当たって」で確認してください。

表１ 教員免許取得に必要な単位数

	教職に関する 科目	独自科目	各教科の 指導法	教科に関する 科目	計
中学校１種	３０単位	３単位	８単位	２０単位	６１単位
高等学校１種	２６単位	１１単位	４単位	２０単位	６１単位

◆教育実習について

「教育実習事前事後指導（１単位）」の内容

- １．教育実習ガイダンス（３年次４月中～下旬）

教育実習申込に係る必要書類配付および実習実施にあたっての注意事項説明

- ２．事前指導（３年次）

事前指導①（７月）

教員養成支援センター教員による教職、教育実習にあたっての心構えに関する講義

事前指導②（７月）

教育学部附属中学校教諭による教職、教育実習にあたっての心構えに関する講義

および附属中学校見学にあたっての注意事項説明

事前指導③（８月）

教育学部附属中学校における観察実習

事前指導④（１２月下旬）

教育実習報告会の聴講

- ３．事前指導（４年次４月中～下旬）

教育実習記録簿配付と教育実習直前での実習実施に係る心構えに関する講話

4. 事後指導（4年次後期）

事後指導①（教育実習終了後2週間以内）

教育実習レポートの提出

事後指導②（12月下旬）

教育実習報告会に参加し、他の学生の教育実習実施報告を聴講し、教育実習を振り返る

教育実習実施の要件

3年次末までに、以下に掲げる要件を満たしていること。

- ①事前指導をすべて受講している
- ②「教育実習ガイダンス」に参加している
- ③卒業に必要な単位（課外科目を除く）を96単位以上修得している
- ④教職に関する科目のうち3年次末までに修得できる単位数の半数以上を修得している
- ⑤「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得している
- ⑥教育実習で実施する教科の教育法を2単位以上修得している
- ⑦教科に関する科目を10単位以上修得していること

教育実習の実施について

教育実習を行う学校は、原則、各自の出身校（母校）です。母校での実習が困難な時は、学生センター③番窓口にご相談ください。中学校教員免許取得の場合は、中学校で4週間（約160時間）、高等学校教員免許取得の場合は、高等学校で2週間（約80時間）、実習を行わなければなりません。実習は、5月中旬～6月下旬に行われることが多いですが、実習校により異なりますので、申込みの際に必ず確認してください。

教育実習実施希望者は、3年次の「教育実習ガイダンス」に参加してください。教育実習申込書を配付しますので、期日までに必要事項を記入した申込書を学生センター③番窓口提出してください。7月中旬頃に、実習予定校宛の依頼文書等をお渡しします。

実習予定校への申し込みは、事前に実習予定校に連絡し、訪問日時を予約した後、長期休業（夏休み）期間中に上記依頼文書持参で、実習予定校に依頼してください。近年、教育実習生の受け入れを制限する学校が増えており、実習を断られる場合もあります。2年次から実習予定校のHPの確認や実習予定校への連絡を行い、教育実習実施の意思を伝えると共に、教育実習の申込時期を問い合わせるなど、早めの行動を心がけてください。

教育実習終了後は、2週間以内にレポートを提出してください。教育実習事後指導の一部で、「教育実習事前事後指導」の単位修得に関わりますので、忘れずに提出してください。

◆教育職員免許取得に係る注意事項

教職ポートフォリオの作成

教員免許取得に関する指導の際に、その学修状況を確認するため、教職ポートフォリオ（学修記録）を作成しなければなりません。毎年度末に教職eポートフォリオに入力してもらいますので、日頃から配付された資料の整理や記録を行ってください。入力時期等は掲示板・アイアシスタントでお知らせします。

4年次後期に履修する「教職実践演習」では、教職ポートフォリオを使ってグループワーク等を行います。毎年度末の教職ポートフォリオの確認を受けていないと「教職実践演習」を履修することができませんので、十分注意してください。

「介護等の体験」の実施（中学校教員免許取得希望者のみ）

中学校教員免許を取得するには、「介護等の体験（介護等体験実習）」を行わなければなりません。

ん。この実習は個人で申し込むことはできませんので、中学校教員免許取得を希望する場合は、2年次11月中～下旬に行われるガイダンスと3年次4月に行われる事前指導に必ず出席してください。2年次のガイダンスでは介護等体験実習の申込用紙等を配付しますので、期日までに学生センター③番窓口提出してください。3年次の事前指導は2回行いますが、全て出席しなければなりません。

介護等体験実習は、3年次の6～12月に行われ、期間は、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の計7日間です。実習先や実習日は、申込書に基づき、岩手県社会福祉協議会（社会福祉施設等）および岩手県教育委員会（特別支援学校）が決めます。

教員免許状の授与申請

教員免許は、岩手県教育委員会に申請し、授与されますが、本学では、卒業見込者の教員免許状申請を一括して行っています。卒業と同時に免許状授与を希望する場合は、期日までに必要書類を学生センター③番窓口提出してください。申請書類の配付や提出締切等は掲示板・アイアシスタントでお知らせいたします（12月中旬頃）。

◆教職に関する科目の履修について

教職に関する科目は、一部授業科目で履修する順番が下記のとおり決まっています。

- ①「教職入門」履修後でなければ、他の教職に関する科目を履修できない
- ②国語科教育法は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順に履修しなければならない
- ③中学校（社会）の免許取得希望者の「各教科指導法」の履修に当たって、社会科教材研究法は、少なくとも中等社会科教育法A（社会・地理）あるいは中等社会科教育法B（社会・公民）のどちらかの科目を履修した後に履修すること。
- ④高等学校（地理歴史）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は、中等社会科教育法A（社会・地歴）、地理歴史科教育法の順に履修しなければならない。
- ⑤高等学校（公民）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は、中等社会科教育法B（社会・公民）、公民科教育法の順に履修しなければならない。

上記以外にも履修の要件がある場合もありますので、シラバスや掲示板をよく確認して履修してください。

◆教科に関する科目および独自科目の履修について

「教科に関する科目」は、免許状の種類および教科により、表2のとおり科目（区分）が定められています。各科目（区分）1単位以上修得したうえで「教科に関する科目」の免許取得に必要な単位数を修得しなければなりません。「独自科目」は、教科に関する科目、各教科の指導法、および教職に関する科目のそれぞれの免許取得に必要な修得単位数を超えて修得した単位が算入されます。

表2 免許種・教科別の科目区分

免許種	教科	科目（区分）
中学校 第1種	国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）
		国文学（国文学史を含む。）
		漢文学
		書道（書写を中心とする。）
	社会	日本史・外国史
		地理学（地誌を含む。）
		「法律学，政治学」
		「社会学，経済学」
		「哲学，倫理学，宗教学」
	英語	英語学
		英語文学
		英語コミュニケーション
		異文化理解
高等学校 第1種	国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）
		国文学（国文学史を含む。）
		漢文学
	地理歴史	日本史
		外国史
		人文地理学・自然地理学
		地誌
	公民	「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」
		「社会学，経済学（国際経済を含む。）」
		「哲学，倫理学，宗教学，心理学」
	英語	英語学
		英語文学
		英語コミュニケーション
		異文化理解

※「 」は、鍵括弧内の科目（区分）から、1つ以上の科目（区分）の授業科目の単位を修得しなければなりません。例えば、中学校社会の「法律学，政治学」では、法律学の科目（区分）の授業科目だけを修得しても教員免許を取得できます。

教職に関する科目(中学校30単位、高校26単位)

科目	各科目に含める必要事項	授業科目名	履修 年次	修得単位				備 考
				中学 必 選	高校 必 選	必 選	必 選	
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) ※「(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」を含む。	教職入門	1前	2		2		
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ※「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 ※「(チーム学校運営への対応を含む。)」を含む。	教育概論	2前	2		2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育法規	2前		2		2	教育法規、学校経営・制度論から2単位必修
		学校経営・制度論	2後		2		2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	1後	2		2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2前	2		2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践	2後	2				中学のみ
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2後	2		2		
	特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	2後	2		2		
	教育の方法及び技術 ※「教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)」を含む。	教育課程・教育方法論	2前	2		2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育におけるICT活用法	3年	1		1		
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導	1後	2		2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2前	2		2		
教育実践に関する科目	教育実習 中5単位、高3単位 ※事前指導含むこと	教育実習事前事後指導	3～4	1		1		
		中学校教育実習	4通	4				
		高等学校教育実習	4通			2		
	教職実践演習	教職実践演習	4後	2		2		

各教科の指導法に関する科目(中学校8単位、高校4単位)

各科目に含める必要事項	授業科目名		修得単位				備 考
			中学 必 選	高校 必 選	必 選	必 選	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法Ⅰ	2前	2		2		ⅠからⅣの順に履修 高校:Ⅲを履修した場合独自科目に算入する
	国語科教育法Ⅱ	2後	2		2		
	国語科教育法Ⅲ	3前	2			2	
	国語科教育法Ⅳ	4後	2				
	中等社会科教育法A(社会・地歴)	2後	2		2		高校地歴:中等社会科教育法Aと地理歴史科教育法を履修
	中等社会科教育法B(社会・公民)	2前	2		2		
	社会科教材研究法	2前	2				
	社会科学習内容構築論	4後	2				
	地理歴史科教育法	2前			2		高校公民:中等社会科教育法Bと公民科教育法を履修
	公民科教育法	2後			2		
	英語科教育法Ⅰ	2前	2		2		高校:Ⅲを履修した場合独自科目に算入する
	英語科教育法Ⅱ	2・3後	2		2		
	英語科教育法Ⅲ	2・3後	2			2	
	英語科教育法Ⅳ	4後	2				

教科に関する科目 科目区分別授業科目一覧

《人間文化課程》

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	必 日本語学概説	2	中学 高校	高等学校免許取得希望者が「書法基礎」を修得しても、「独自科目」の単位には算入できない。 授業科目名の「必」は必修の授業科目であることを意味している（以下同様）。
		日本語学講義 A	2	中学 高校	
		日本語学講義 B	2	中学 高校	
		日本語学講義 C	2	中学 高校	
		日本語学講義 D	2	中学 高校	
		日本語学講読 A	2	中学 高校	
		日本語学講読 B	2	中学 高校	
		日本語学特講 A	2	中学 高校	
		日本語学特講 B	2	中学 高校	
		日本語表現基礎（アカデミック・ライティング）	2	中学 高校	
		日本語読解基礎（クリティカル・リーディング）	2	中学 高校	
		中国語学講義 B	2	中学 高校	
	国文学（国文学史を含む。）	必 日本文学講義 A	2	中学 高校	中学校免許では、日本史＋外国史の授業科目＝日本史・外国史の授業科目、人文地理学・自然地理学＋地誌の授業科目＝地理学（地誌を含む。）の授業科目。必修、選択必修の授業科目も同様である。 授業科目名の「選必」は選択必修の授業科目であることを意味している（以下同様）。 選必 アジア史講義 A，同 B から 2 単位修得すること。
		必 日本文学講義 B	2	中学 高校	
		必 日本文学講義 C	2	中学 高校	
		必 日本文学講義 D	2	中学 高校	
		日本文学特講 A	2	中学 高校	
		日本文学特講 B	2	中学 高校	
	漢文学	必 漢文学概論	2	中学 高校	
		漢文学講義	2	中学 高校	
	書道（書写を中心とする。）	必 書法基礎	2	中学	
社会・地理・歴史	日本史	必 日本史講義 A	2	中学 高校	
		必 日本史講義 B	2	中学 高校	
		日本史講義 C	2	中学 高校	
		日本史講義 D	2	中学 高校	
		日本史特講 A	2	中学 高校	
		日本史特講 B	2	中学 高校	
		日本史特講 C	2	中学 高校	
		日本史講読 A	2	中学 高校	
		日本史講読 B	2	中学 高校	
		考古学講義 A	2	中学 高校	
		考古学講義 B	2	中学 高校	
	外国史	必 西洋史講義 A	2	中学 高校	
		必 西洋史講義 B	2	中学 高校	
		西洋史講義 C	2	中学 高校	
		選必 アジア史講義 A	2	中学 高校	
		選必 アジア史講義 B	2	中学 高校	
		西洋史特講 A	2	中学 高校	
		西洋史特講 B	2	中学 高校	
		西洋史講読 A	2	中学 高校	
		西洋史講読 B	2	中学 高校	
		西洋史講読 C	2	中学 高校	
		西洋史講読 D	2	中学 高校	
		アジア史特講 A	2	中学 高校	
		アジア史特講 B	2	中学 高校	
		アジア史特講 C	2	中学 高校	
	人文地理学・自然地理学	必 人文地理学概論 A	2	中学 高校	※課外科目
		必 自然地理学概論 A	2	中学 高校	
	地誌	必 地誌学	2	中学 高校	※課外科目

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
社会	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」	必 政治学（政治過程）	2	中学 高校	中学校免許では、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」の授業科目＝「法律学、政治学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。
		民法（総則）Ⅰ	2	中学 高校	
		民法（総則）Ⅱ	2	中学 高校	
		民法（物権）Ⅰ	2	中学 高校	
		民法（物権）Ⅱ	2	中学 高校	
		民法（家族法）A	2	中学 高校	
		民法（家族法）B	2	中学 高校	
		憲法（人権）Ⅰ	2	中学 高校	
		憲法（人権）Ⅱ	2	中学 高校	
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	必 社会学入門A	2	中学 高校	中学校免許では、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」の授業科目＝「社会学、経済学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。
		社会学入門B	2	中学 高校	
		社会学入門C	2	中学 高校	
		地域社会学	2	中学 高校	
		地域社会学特講	2	中学 高校	
		ジェンダー論講義	2	中学 高校	
		エスニシティ論講義	2	中学 高校	
公民	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	選必 人文学入門A	2	中学 高校	中学校免許では、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」の授業科目＝「哲学、倫理学、宗教学」の授業科目である。心理学は高等学校のみで、中学校免許取得のための修得単位数には算入できない。 中学社会「選必」 人文学入門A、日本思想史講義A、日本思想史講義Bから2単位修得すること。 高校公民「選必」 人文学入門A、日本思想史講義A、日本思想史講義B、心理学概論から2単位修得すること。
		人文学入門B	2	中学 高校	
		人文学入門C	2	中学 高校	
		人間学講義	2	中学 高校	
		倫理学講義	2	中学 高校	
		選必 日本思想史講義A	2	中学 高校	
		人間学特講A	2	中学 高校	
		人間学特講B	2	中学 高校	
		倫理学特講A	2	中学 高校	
		倫理学特講B	2	中学 高校	
		選必 日本思想史講義B	2	中学 高校	
		日本思想史講義C	2	中学 高校	
		日本思想史講義D	2	中学 高校	
		日本思想史特講A	2	中学 高校	
		日本思想史特講B	2	中学 高校	
		日本思想史特講C	2	中学 高校	
		日本思想史講読Ⅰ	2	中学 高校	
		日本思想史講読Ⅱ	2	中学 高校	
		社会文化思想論講義	2	中学 高校	
		選必 心理学概論	2	高校	
		実験心理学 （神経・生理心理学）	2	高校	
		認知心理学 （知覚・認知心理学Ⅰ）	2	高校	
		社会心理学 （社会・集団・家族心理学）	2	高校	
		臨床心理学 （臨床心理学概論）	2	高校	
		認知心理学特講 （知覚・認知心理学Ⅱ）	2	高校	
		人格心理学特講	2	高校	

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
英語	英語学	必 英語学講義D	2	中学 高校	
		言語習得論A	2	中学 高校	
		言語習得論B	2	中学 高校	
		英語学講義A	2	中学 高校	
		英語学講義B	2	中学 高校	
		英語学講義C	2	中学 高校	
	英語文学	必 英米文学講義D	2	中学 高校	
		英米文学講義A	2	中学 高校	
		英米文学講義B	2	中学 高校	
		英米文学講義C	2	中学 高校	
	英語コミュニケーション	選必 英語コミュニケーション基礎Ⅰ	2	中学 高校	選必 英語コミュニケーション基礎Ⅰ，スキルアップ・イングリッシュBから2単位修得すること。
		選必 スキルアップ・イングリッシュB	2	中学 高校	
		英語コミュニケーション基礎Ⅱ	2	中学 高校	
		スキルアップ・イングリッシュA	2	中学 高校	
	異文化理解	必 英米文化論講義E	2	中学 高校	
		英米文化論講義A	2	中学 高校	
		英米文化論講義B	2	中学 高校	
		英米文化論講義C	2	中学 高校	
		英米文化論講義D	2	中学 高校	
		英米文化論講義F	2	中学 高校	

《地域政策課程》

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
公	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」	必 政治学（政治過程）	2	高校	
		民法（総則）Ⅰ	2	高校	
		民法（総則）Ⅱ	2	高校	
		民法（物権）Ⅰ	2	高校	
		民法（物権）Ⅱ	2	高校	
		民法（家族法）A	2	高校	
		民法（家族法）B	2	高校	
		憲法（人権）Ⅰ	2	高校	
		憲法（人権）Ⅱ	2	高校	
民	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	必 経済学基礎Ⅰ	2	高校	
		環境社会学Ⅰ	2	高校	
		環境社会学Ⅱ	2	高校	
		経済学基礎Ⅱ	2	高校	
		農業経済論Ⅰ	2	高校	
		農業経済論Ⅱ	2	高校	
		理論経済学Ⅰ	2	高校	
		理論経済学Ⅱ	2	高校	
		財政学Ⅰ	2	高校	
		財政学Ⅱ	2	高校	
		環境経済論A	2	高校	
環境経済論特講	2	高校			
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	選必 人文学入門A	2	高校	選必：人文学入門A、日本思想史講義A、日本思想史講義B、心理学概論から2単位修得すること。 本科目（区分）の授業科目は、全て人間文化課程の授業科目。
		選必 日本思想史講義A	2	高校	
		選必 日本思想史講義B	2	高校	
		選必 心理学概論	2	高校	